

平成二十年五月二十七日提出
質問第四三二号

ハツ場ダム問題に関する質問主意書

提出者 石関貴史

回答・平成20年6月6日

ダムの治水計画に採用されている一〇〇年に一回の降雨量に匹敵するものであった。しかし、この時ダム予定地近傍の岩島地点で計測された実測流量は、国が想定している机上の計算によるハツ場ダムへの最大洪水流入量毎秒三九〇〇 m^3 の二八%から三〇%の量にすぎなかつた。このことに関連して以下質問をする。

1 最大流入量毎秒三九〇〇 m^3 を決めた時期

利根川支川・吾妻川で建設が進められているハツ場ダムは自然への影響や災害誘発の可能性など、様々な問題が指摘されており、ダム建設の必要性について徹底した検証が求められている。また、ハツ場ダム事業には様々な疑問がある。従つて、次の事項について以下、質問する。

一 ハツ場ダムの治水計画について

昨年九月の台風九号と二〇〇一年九月の台風一五号の降雨量はハツ場

ないが、昭和六十一年七月に作成した特定多目的ダム法（昭和三十二年法律第三十五号）第四条第一項の規定に基づくハツ場ダムの建設に関する基本計画（以下「基本計画」という。）においては、ハツ場ダムの建設される地点における計画高水流量毎秒三千九百立方メートルのうち、毎秒一千四百立方メートルの洪水調節を行うこととしている。

2 每秒三九〇〇 m^3 算出の根拠となつた観測流量

ハツ場ダムの治水計画は一〇〇年に一回の降雨が想定され、最大で毎秒三九〇〇 m^3 の洪水が流入し、そのうち、二四〇〇 m^3 をダムでカットすることになつていると聞く。この最大流入量毎秒三九〇〇 m^3 という数字が決まつたのはいつのことなのか、その数字が決まった時期を明らかにされたい。

【答弁】一の1について
お尋ねの「数字が決まった時期」が何を指すのか必ずしも明らかではない。

毎秒三九〇〇 m^3 は一〇〇年に一回の雨量を洪水流出モデルに当てはめて計算したものと思われるが、その洪水流出モデルの係数は実際の観測流量に適合するものが選択されなければならない。ハツ場ダムの洪水流出モデルの係数選択に用いた観測流量はどの地点のものなのか、また、いつの時点の観測値なのかを明らかにされたい。

【答弁】一の2について

ハツ場ダムの洪水流出計算モデルの係数については、一級河川利根川水系吾妻川（以下「吾妻川」という。）の群馬県渋川市村上地先において、昭和三十四年八月、昭和五

十六年八月、昭和五十七年八月及び昭和五十七年九月の洪水時における流量の観測値等により検証している。

3 ハツ場ダム予定地近傍の岩島地点の流量観測

現在、吾妻川のハツ場ダム予定地の近傍では国土交通省が岩島地点で流量観測を行っている。岩島地点で洪水流量観測が行われるようになつたのは何年からなのかを明らかにされたい。

【答弁】一の3について

お尋ねの「洪水流量観測」が何を指すのか必ずしも明らかではないが、高水流観測を指すのであれば、

【答弁】一の4について

岩島地点において「洪水。ピーグ流量が毎秒一〇〇〇 m^3 を超えた」と思われる洪水を観測した時間帯、流量の観測値のうち最大のもの（以

吾妻川の群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島地先（以下「岩島地点」という。）においては、建設省関東地方建設局ハツ場ダム工事事務所（当時）が昭和五十六年から高水流量観測を開始している。

4 岩島地点の洪水流量と流域平均三日雨量

岩島地点で洪水流量観測が行われてから、その洪水ピーグ流量が毎秒一〇〇〇 m^3 を超えた時の年月日と時刻、ピーグ流量観測値、及びその時のハツ場ダム上流域平均の最大三日雨量を明らかにされたい。また、ハツ場ダムの計画三日雨量、岩島地点とハツ場ダムの流域面積も明らかにされたい。

下「最大観測値」という。）及び洪水時のハツ場ダム上流域の流域平均の三日雨量は、昭和五十六年八月二十三日午前三時八分から同日午前八時八分まで最大観測値が毎秒約千四百七立方メートルであり三日雨量が約二百七十九ミリメートル、昭和五十七年九月十二日午後十一時五分から翌日午前零時十五分まで最大観測値が毎秒約千五百二十六立方メートルであり三日雨量が約二百十七ミリメートル、平成十年九月十六日午前八時から同日午前十一時まで最大観測値が毎秒約千三百七十三立方メートルであり三日雨量が約二百七ミリメートル、平成十三年九月十日午後三時一分から同日午後四時四分まで最大観測値が毎秒約千二百七十立方メートルであり三日雨量が約三百四十一ミリメートル、平成十九年九月七日午前二時二分で最大観測値が毎秒約千十立方メートルであり三日雨量が約三百二十

三ミリメートルとなつてゐる。

また、ハツ場ダム地点における計画降雨量は三日雨量で三百五十四ミリメートルであり、ハツ場ダム地点から上流の流域面積は約七百八平方キロメートル、岩島地点から上流の流域面積は約七百四十七平方キロメートルである。

二 利根川に対するハツ場ダムの治水効果について

国土交通省によると、ハツ場ダムが計画されている吾妻川の流域面積は、治水基準点「八斗島」（群馬県伊勢崎市）の上流域の $1/4$ を占め、またハツ場ダムの治水容量は利根川上流域にある六ダムを合計した治水容量の約六割を占めるため、利根川下流域の洪水被害を軽減することである。国土交通省のいう洪水被害の軽減がどの程度のものなのか、八斗島治水基準点における、具体的なデータについて質問する。

1 カスリーン台風再来時のハツ場ダムの治水効果

利根川の治水計画のベースとなつてゐるのは、一九四七年のカスリーン台風による洪水である。このカスリーン台風が再来した場合、ハツ場ダムは治水基準点「八斗島」においてどのような治水効果があるのか、ハツ場ダムがない場合の洪水ピーク流量、ハツ場ダムがある場合の洪水ピーク流量をそれぞれ計算した結果について明らかにされたい。

【答弁】二の1について

国土交通省において、昭和二十二年九月の洪水時と同程度の降雨量で、同洪水時を含む過去に生起した三十一の洪水時の降雨パターンを基に、八斗島地点における流出計算を行つた結果によれば、そのうち二十九の洪水時の降雨パターンについて、ハツ場ダムは洪水のピーク流量に対する調節効果を有している。

2 最近の洪水におけるハツ場ダムの治水効果

最近三〇年間の洪水についてハツ場ダムがあつた場合の八斗島地点での既設の六ダム（相保ダム、藤原ダム、治水効果を計算したものがあれば、

奈良俣ダム、矢木沢ダム、菌原ダム及び下久保ダムをいう。以下同じ。）はあるがハツ場ダムがない場合の洪水のピーク流量は毎秒二万四百二十一立方メートル、既設の六ダムに加えてハツ場ダムがある場合の洪水のピーク流量は毎秒二万四百二十一立方メートルである。

なお、国土交通省において、昭和二十二年九月の洪水時と同程度の降雨量で、同洪水時を含む過去に生起した三十一の洪水時の降雨パ

その計算結果について詳細に説明されたい。ハツ場ダムがあつた場合の洪水ピーク流量と最高水位の計算結果、及び実際の洪水ピーク流量と最高水位の観測値、その発生年月日・時刻を明らかにされたい。また、その時のハツ場ダム地点の最大流入量の計算結果、及びそれぞれの発生年月日・時刻も明らかにされたい。

【答弁】二の2について
お尋ねの「最近三〇年間の洪水についてハツ場ダムがあつた場合のハツ島地点での治水効果を計算したもの」は、国土交通省が現時点で把握している限りでは存在しない。

3 最近の洪水における八斗島以外でのハツ場ダムの治水効果

八斗島地点以外で利根川におけるハツ場ダムの治水効果を、最近三〇年間の洪水について計算したものがあれば、その計算結果について詳細に説明されたい。ハツ場ダムがあつた場

合の洪水ピーク流量と最高水位の計算結果、及び実際の洪水ピーク流量と最高水位の観測値、その発生年月日・時刻を明らかにされたい。また、その時のハツ場ダム地点の最大流入量と最大放流量の計算結果、及びそれぞれの発生年月日・時刻も明らかにされたい。

【答弁】二の3について

お尋ねの「八斗島地点以外で利根川におけるハツ場ダムの治水効果を、最近三〇年間の洪水について計算したもの」については、国土交通省が現時点で詳細を把握しているものは存在しない。

三 ハツ場ダムの暫定水利権について

ハツ場ダムにより開発される水の約六割は既に暫定水利権として取水されていると国土交通省は説明している。このことに関連して質問をする。

1 ハツ場ダム暫定水利権の内容
現在、ハツ場ダムの暫定水利権が許可されている利水者の名、暫定水利権の水量、非かんがい期と通年の区別を明らかにされたい。

【答弁】三の1及び2について

ハツ場ダムの暫定水利権（ダム等水源開発施設の建設を勘案し許可された水利権をいう。以下同じ。）の名称、許可を受けている者、水量及び当初許可年月日（同一の名称で最も早く暫定水利権の許可を受けた年月日をいう。）は、平成十九年度末現在、次のとおりである。

- (1) 東部地域水道用水供給事業、群馬県知事、毎秒〇・四二八立方メートル（非かんがい期）、平成九年十月十七日

- (2) 藤岡市水道、藤岡市長、毎秒〇・二三五立方メートル（通年）、昭和四十三年九月三十日
(3) 埼玉県水道（大久保）、埼玉県知事、毎秒三・七五〇立方メ

ートル(非かんがい期)、毎秒〇・六七〇立方メートル(通年)、昭和四十八年六月三十日

(4) 埼玉県水道(吉見)、埼玉県知事、毎秒〇・四八二立方メートル(非かんがい期)、平成十七年三月三十一日

(5) 東京都水道(朝霞)、東京都知事、毎秒〇・五五九立方メートル(非かんがい期)、昭和六十二年年五月一日

(6) 千葉県水道(矢切)、千葉県知事、毎秒〇・四七〇立方メートル(非かんがい期)、昭和五十四年三月三十一日

(7) 県西広域水道(水海道系)、茨城県知事、毎秒〇・〇三六立方メートル(通年)、平成十三年六月十二日

(8) 県南広域水道(利根川)、茨城県知事、毎秒〇・五〇七立方メートル(通年)、昭和五十五年三月三十一日

(9) 東毛工業用水道、群馬県知事、毎秒〇・二一〇八立方メートル(非かんがい期)、昭和五十二年七月十九日

(10) 千葉地区工業用水道、千葉県知事、毎秒〇・四七〇立方メートル(通年)、昭和五十一年二月二十日

(11) 群馬用水、独立行政法人水資源機構理事長、毎秒〇・五六四立方メートル(非かんがい期)、平成十二年十月三十日

(12) 埼玉県水道(行田)、独立行政法人水資源機構理事長、毎秒四・三二五立方メートル(非かんがい期)、昭和五十九年六月六日

3 涸水時におけるハツ場ダムの暫定水利権の取水制限

前記1の各利水者のハツ場ダム暫定水利権は一九九〇年代以降の渇水時において安定水利権とは異なる取水制限を受けたことがあるのか。安定水利権とは異なる取水制限を受けたことがあるならば、各暫定水利権について、その状況を明らかにされたい。

【答弁】3について

平成十三年八月に実施された取水制限において、3の1及び2について述べたハツ場ダムの暫定水利権のうち、埼玉県水道(大久保)及び埼玉県水道(行田)については、お尋ねの「安定水利権」とは異なる取水制限」を実施している。当時、埼玉県水道(大久保)の暫定水利権は水量が毎秒三・〇〇八立方メートル(非かんがい期)、毎秒〇・六九八立方メートル(通年)で、埼玉県水道(行田)の暫定水利権は水量が毎秒

2 暫定水利権の開始時期

前記の暫定水利権それぞれが最初に許可を受けた時期を明らかにされたい。なお、開始時期はハツ場ダムの暫定水利権に限定したものではなく、暫定水利権としての許可を最初に受けた時期を示されたい。

一・六六六立方メートル(非かんが
い期)、毎秒一・〇六八立方メート

ル(通年)であり、このうち埼玉県水
道(大久保)の毎秒〇・六九八立方
メートル(通年)及び埼玉県水道
(行田)の毎秒一・〇六八立方メー
トル(通年)について、安定水利権の
取水制限率が十パーセントであつた
のに対し、二十パーセントの取水
制限率となつていた。

四 発電について

1 ハツ場ダムに付設される水力発 電所

ハツ場ダムに付設される予定の水
力発電所の最大発電力と年間発電
見込み量を明らかにされたい。

【答弁】四の1について

現在、手続を行つている基本計画
の変更に当たつては、ハツ場ダムの建
設に伴い新設される発電所の最大
出力を一万七百キロワット、年間
可能発生電力量を四万九百九十九

二メガワット時と見込んでいる。

2 吾妻川の水力発電所

吾妻川の東京電力株の水力発電
所のうち、ハツ場ダムの貯水が影響す
ると想定される川中、松谷、原町、
箱島、金井、渋川発電所のそれぞれ
の最大発電力と最近一〇年間の年間
平均発電量を明らかにされたい。

【答弁】四の2について

東京電力株式会社から提出され
た河川法(昭和三十九年法律第百
六十七号)第二十三条规定に基づく許
可の申請書における最大発電力は、

川中発電所が一万四千キロワット、
松谷発電所が二万三千五百キロワ
ット、原町発電所が二万六千五百
キロワット、箱島発電所が二万三千
百キロワット、金井発電所が一万四
千二百キロワット、渋川発電所が六
千八百キロワットである。

また、「年間平均発電量」について
は、国土交通省は、河川法第二十

三条に基づく許可の条件として、実
際の取水量について報告を受けてい
るが、実際の発電量について報告を
受けることとはしていないことから、
把握していない。

五 ハツ場ダム事業の便益計算に ついて

1 洪水調節の便益

ハツ場ダムの洪水調節の便益は一
九四七年のカスリーン台風洪水が再
來した場合に利根川の氾濫で失われ
る資産を計算した結果から求められ
ていると聞く。しかし、一方で、カスリ
ーン台風再来時における利根川での
ハツ場ダムの治水効果の計算結果は
ゼロに近いと聞く。カスリーン台風再
來時のハツ場ダムの治水効果を前提
にした場合は、ハツ場ダムの洪水調節
の便益がいくらになるのか。その計算
結果を示されたい。また、ハツ場ダム
がある場合とない場合の、ハツ場ダム
下流域の洪水想定氾濫区域図との

計算根拠を示されたい。

【答弁】五の1について

お尋ねの「カスリーン台風再来時のハツ場ダムの治水効果を前提にした場合」におけるハツ場ダムの洪水調節に係る便益については算出していないため、お答えすることは困難である。なお、利根川上流域は過去の降雨の特性が多様であることから、過去に生起した三十一の洪水時ににおける降雨パターンを用いて、年超過確率二百分の一の洪水が生起した場合における洪水調節効果を計算すること等により、ハツ場ダムの洪水調節に係る便益を八千二百七十六億円と算出しているところである。

また、お尋ねの「洪水想定氾濫区域図」が何を指すのか必ずしも明らかではないが、利根川水系においては平成三年に「直轄河川防御対象氾濫区域図」を作成し、公表しているところであり、これは計画高水

位より低い沿川の地域等が浸水する」と仮定して洪水時に浸水する可能性がある区域を図示したものであり、「ハツ場ダムがある場合」とない場合について、計算に基づき作成したものではない。

2 河川の水量確保に係る便益

ハツ場ダムの建設により、吾妻渓谷の自然は大きなダメージを受けるにもかかわらず、ハツ場ダムによって逆に「吾妻渓谷に必要な水量を確保することによる景観改善の便益」が生まれるとされている。この便益の計算方法とその計算に用いた観光客数及びその観光客数の算出根拠を明らかにされたい。

【答弁】五の2について

ハツ場ダムの河川の水量確保に係る便益は、ハツ場ダムにより吾妻川に維持流量を確保することによる景観改善等の効果を算定したものであり、観光客数及び沿川居住世

帶数に、近隣のダムで実施したアンケート調査結果に基づいて設定した支払意思額（河川の水量を確保するための取組に対する個人や世帯が支払ってもよいと考える金額をいう。）を乗じること等により算出したものである。

便益の計算に使用した観光客数は、約七百三十九万人であり、平成十三年度における吾妻町（当時）、長野原町、草津町、嬬恋村及び六合村の年間の観光客数を合計したものである。

3 水力発電所の河川維持流量の義務付け

吾妻渓谷の流量がたまに落ち込むことがあるのは、上流側にある東京電力株の水力発電所の取水堰で全量取水がされているからである。しかし、最近は水力発電所の取水に関しては水利権の更新時に河川維持流量の放流が義務付けられるようになつていて、水利権の更新時期を過ぎ

れば、吾妻渓谷の流量は増加すると予想される。吾妻渓谷より上流で取水している川中発電所及び松谷発電所の水利権更新が何年度に行われるのかを明らかにされたい。

右質問する。

【答弁】五の3について

川中発電所及び松谷発電所に関する水利権の許可期間は、平成二十三年度末までであり、東京電力株式会社からの申請があれば、必要な審査を行い、更新を判断することとなる。